

# 会 議 録

## 1 会議名

令和6年度第6回吉川区地域協議会

## 2 会長挨拶

## 3 議題（公開・非公開の別）

### ・報告事項（公開）

（1）会長報告

（2）委員報告

（3）事務局報告

・答申に対する通知について（上越市立吉川地区公民館竹直分館、源分館の廃止）

### ・自主的な審議（公開）

（1）自主的な審議事項「若者の移住定住につながる魅力的な子育て支援策について」

（2）その他

### ・協議事項（公開）

（1）頸北地区地域協議会委員合同研修会の振り返りについて

（2）その他

### ・その他（公開）

## 4 開催日時

令和6年11月21日（木）午後6時30分から午後8時01分まで

## 5 開催場所

吉川コミュニティプラザ 3階 大会議室

## 6 傍聴人の数

0人

## 7 非公開の理由

なし

## 8 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：薄波和夫、太田和広、斉藤崇人、関澤義男、田中久美子、田邊良子  
新部嘉夫、橋爪隆之、武藤正、山岸晃一

・事務局：吉川区総合事務所

風間所長、山本次長、渡邊市民生活・福祉グループ長（教育・文化グル

ープ長兼務)、平原総務・地域振興グループ班長、熊木総務・地域振興グループ副主幹

## 9 発言の内容(要旨)

### 【山本次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・委員10人の出席を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・会議録の確認：斉藤委員

### 【山岸会長】

- ・挨拶

### 【山本次長】

- ・議長の選出について、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により山岸会長から議長を務めていただく。

### 【山岸会長】

(東京吉川会について報告)

- ・次に委員報告をお願いする。

### 【関澤委員】

(地域独自の予算事業「吉川区と上杉家の繋がり」大乘寺の歴史伝承事業について報告)

### 【山岸会長】

(関澤委員の報告の補足説明)

### 【新部委員】

(生涯学習フェスティバルについて報告)

### 【山岸会長】

- ・次に事務局報告をお願いする。

### 【山本次長】

(資料1-1、1-2「答申・上越市立吉川地区公民館竹直分館、源分館の廃止に対する通知について」に基づき説明)

### 【熊木副主幹】

(地域協議会だよりの編集・発行について説明)

**【山岸会長】**

- ・質問、意見はないか。

(声なし)

- ・次に4自主的な審議に移る。自主的審議事項「若者の移住定住につながる魅力的な子育て支援策について」について、前回皆さんから最初にこちらから協議をという意見をいただいた。これについて皆さんの考えを改めて聞きたい。さらに今後の進め方として市はどのように取り組んでいるのかも聞いた方が良いのではないかとと思うので、その辺も含めて皆さんの意見を聞く。一人ずつ聞く。武藤委員いかがか。

**【武藤委員】**

- ・移住して来られる方用に住居として空き家等をリフォームし、それを格安で貸し出す、あるいは売ると言ったことが考えられると思った。

**【橋爪委員】**

- ・少子化現象を抑えるには若者の定住が1位で、若者がいなくなるというのがどうしても負の連鎖で始まっていて、だんだん働くところがなくなって、あったものが潰れてなくなって、直江津の方へ働きに出る。そうすると商店の売れるものが売れなくなる。さらに閉店してしまう。そういうところから、だんだん子どもがいなくなって、町内会に子どもがいなくて寂しくなってほかのところに出て行く。こういう負の連鎖がすでに始まっている。そこをどうやって止めるかというのは非常に難しいが、やはり活性化というよりも魅力ある町内会や魅力ある地域にするにはどうするかということは思いつかないが、何かやらないと出て行ってしまう。特に親が歳を取ってくると逆に余計に出て行ってしまおうという気がする。どこから手を付けて良いか考えが及ばない。とにかく負の連鎖をどこかで切らないと、なかなか難しいと思う。

**【新部委員】**

- ・私は長峰に住んでいるが、長峰も数年で子どもの数がかなり少なくなり、私がこども会の役員の時には30人近くいたが、今は団地も入れて10人しかいないようだ。来年はもっと少なくなるらしい。子どもたちがいなくなるというのは困る。だんだん萎んでいく。何らかの形で今本当に困っている子どもたちの親御さんの情報収集とか意見を収集する中でその方たちのアイデアを聞くというのも一つだと思う。

### 【田邊委員】

- ・私は村屋に住んでいるが、20歳以下の子どもが0人である。結婚していない人も何人かいるので、嫁に来たりとか、何かあって一人二人と増えていくようなことをしてもらいたいと思う。この間、孫を高田のオーレンプラザに連れて行った。そこにはちょっとした遊び場があって、吉川にはそういう子どもたちが集まって遊べる場所がないような気がする。うちの町内には同級生がいないので他の町内まで車で親が送らないといけない。結局遊ぶことができない。集まれるところがあるとか、そういうのがあると少しは良い。

### 【田中委員】

- ・私は、今子育て中なので、新部さんが言ったように私たちみたいな親から困りごとを聞くというのは、すごく良いと思う。田邊委員が言ったように子どもが遊べる場所がないというのは一番のネックだと思っている。市内の方に行くところの家のいうのがあるようで、放課後に子どもたちが集まって遊べる場所があり、係の人がいると聞いた。学校帰りに子どもたちが直接寄って良いような形で、そこに行くと子どもたちが見守りのある中で遊んでいて良いと思った。今から定住や移住を促すというのは、なかなか難しいと思うので、今いる子どもたちが「吉川で育って何か楽しかったよね。」と思えるところでないと子どもたちが大きくなったら出て行ってしまうと思う。今いる子どもたちが遊べる公園であったり、具体的には言えないが高校生になった時の通学の問題、交通費がとてかかる問題、選べない中でそこに行くしかない。今高校生の母親に聞くと半年で5万、6万円と普通に掛かるとい話を聞くと高校へ行かせられないという話もあるので、その辺中心部に住んでいる人たちとの差がないような補助をしていただけたらとか、子どもたちが学校にお金の問題で行かせられないことがないようにしてもらいたい。また、移住については、私も移住者なので困ったのが除雪機を買わなくてはいけなくて、それが結構な値段で、移住者には除雪機をプレゼントする制度があると嬉しい。

### 【関澤委員】

- ・これは、難しい問題だ。今、上越市全体で若者の移住、定住の流れはどうなっているか。問題は、定住しても住む場所がない、仕事がないということは、一番のネックである。どこから来ても最低空き家を案内しても、その人が生活していなければならない。1年や2年の支援ではなく、せめて5年、10年という長い目で見てあげないと竹の芽のように枯れて行ってしまふ。現状で吉川区は人口が減って、3千

人を切ろうとしている。大瀨区、頸城区、柿崎区は、それでも7、8千人いる。なぜかという150人から200人規模の企業がある。今、川谷地区に地域おこし協力隊が来ている。川谷には「百笑百年物語」というのがあって1年に1人ずつ増やしていけば、100年経てば100人だという長い目の見方で見たあの考えもしかりと思う。吉川区にはパラグライダー基地がある。田んぼの水源がある。このように条件が良い、良すぎてダメなのか、それとも地域の皆さんが移住してきた人を他人扱いするのか、その辺も検討していかなければならないと思う。いずれにしても、結婚したくない人がある。以前、婚活講演会を地域協議会としてやったが、参加者が少なかった。もっと吉川の良さをアピールすべきだ。

#### 【齊藤委員】

- ・吉川は喫茶店とかが少ないので若い母親たちが集まって話す場所がない。このコミュニティプラザの2階に市民談話室があるが、椅子が多かったりする。若者から来てもらいたいのも山々であるが、子どもが産まれたら若い母親たちが話のできる良い場所を提供するのが先だと思う。コミュニティプラザの2階の図書室も机もあって良いが、飲食禁止である。市民談話室や集団指導室が2階にあるが、その辺をうまく活用して、もうちょっと若い母親たちが飲んだり、話したりできる場所があったら良いと思う。場所を提供してから、母親たちにアンケートを取ったり細かい話を吸い上げて行くと良いのではないかと思う。本来であれば山岸会長が言ったように長峰のゆったりな郷の向かいの空き地利用とか、尾神のキャンプ場とかがあると思うが、それは本当に行きつくところである。子育てと観光が同時に進められないという難しい問題があって子育て支援という部分に手を挙げた。最終的には観光に並行して結び付けられたら良いと思う。

#### 【太田委員】

- ・子育て支援というのわかるが、子どもがいて子育て支援をしなければいけないくらい子どもがいれば一番良いのだが、子育て支援の前段をきちんとしていかないといけない。もう少し若者を集める工夫をしなければいけない。結局、若者がいなくて結婚しなかったら、子どもができないわけだから、子育て支援をいくら頑張っても、それほど成果は出ない。良くはしないといけないとは思いますが、それほど成果は出ないのではないかと思う。関澤委員が言った地域の魅力を発信するということは大事だと思う。川谷、石谷最寄りに地域おこし協力隊が入ってきて非常にうまくやっている。吉川区の中でもあそこが一番うまくやっていると思う。みんな仲良くし

ているし、年寄りの方がすごく喜んでいいる。「若い人たちが入ってきてくれて良かった。」と。あれは模範的なモデルに吉川区ではなっているのではないかと思う。源のことを言うと、皆さんほとんどが農家で自分の息子に「農家なんてやっいてはダメだから、どこかに行って仕事しろ。」と言ってみんな出しておいて、さあ自分は歳を取った、田んぼをやってくれる人がいなくなった。みんな来てくれと言っても、それは簡単な話ではないと思う。ですから、川谷、石谷あたりの話を聞くということも大事だと思う。もっと魅力を発信して、人がいないところへ企業に来てくれと言っても企業は人がいなければ来ない。そんな大きな夢を見ても仕方ない。とりあえず魅力を発信して若い人たちから集まってもらおうということが私たちにできることではないかと思う。

#### 【薄波副会長】

- ・あまり具体的な対策案というのはないが、若者定住・移住、子育て支援というテーマについては、もう10年も20年も前から少子高齢化が進んできている中で色々なところで検討、議論されている。どうやったら良いかという解決策は色々出ている。実際、日本の中には人口が増えているところが結構ある。田舎の市町村にも。そういうところは、それなりの対策を立てて、住宅を無償で提供するとか、交通費を子どもが高校を卒業するまで無償とするとか、色々な対策を立てているからこそ人口が増えている、子どもたちがいっぱい来ている所もある。しかし上越市を考えるといろいろな対策を打っているが、なかなか予算がなくて極端な対策は実行できていない。結果的に人口がどんどん減ってきている。それで先ほど橋爪委員が言われたように負の連鎖が続いてきてしまっている。これをどこかで断ち切らなければいけないと思うが、吉川区だけを考えると山の方から平場まで環境が全く違うので、同じ対策では無理だと思う。だが、何をしたら良いのかは勤める場所がないと人は集まらない。働く場所があれば、そこに人が来るし、働いていれば子育てもできると思う。そういう環境を作ると言っても、この吉川区の中で、工業団地もなくなってしまったし、これから作ると言っても無理だと思う。それに代わる何かを、吉川区にあった対策を作っていかなければいけないと思う。子育て支援という訳ではないが、吉川保育園の状況を伺ったが、区外からも通年で吉川保育園に来ている人がいるらしい。それは、なぜかと言ったら、吉川保育園の環境が良いからである。それと同じように、吉川区の中の若者や子育てについて環境が良くなれば人が自然と集まってくるのではないかと思う。そういう所に着目した中で対策を進めて行けば

良いのではないかと思う。

【山岸会長】

- ・総じて、これはという簡単な問題ではないというのは、承知しているが立場上、皆さんと協議は進めていかなければならない。何もしないということは、結局過疎化を、さらに人口減少を進める。できれば、今市が何か対策を考えているのか。上越市として話をしてもらっても吉川区にヒットしない。話を聞くのであれば、吉川区に特化して調査してきたものが何かあるのか、その辺を次回に来てもらい話を聞いて、意見交換をするという場面を作れたら良いかと思う。さらに、現在子育て世代の人の話を聞きたい。相手のあることではあるが、アプローチしたらどうかと思う。事務局お願いできるか。

【山本次長】

- ・子育て支援策は範囲が広い。市役所の中にも色々な課がある。すべての担当課に一度に寄ってもらうのも難しい。市の中に市政の重要課題の解決などのために調査研究を行う部署として創造行政研究所という部署がある。そこであれば地区ごとの状況も研究していると思うので、まずは、そこから来ていただくことで良いか。

【山岸会長】

- ・事務局からそのような提案をいただいたが、いかがか。次回に来てもらうことで進めて良いか。

(「はい」の声あり)

- ・では、そのようにお願いしていただきたい。

【橋爪委員】

- ・吉川区の住民だけで吉川区の良さをというよりは、外から見てもらった意見を取り入れることはできないものか。外から見て吉川区はどんな魅力があるかという問い合わせをどこかに置いて聞いてみるとか、吉川区はなぜ悪いのかというのも吉川区の人だけに聞いてもなかなか見つからない部分もあると思うので、吉川区から出てほかの地区に住んでいる人もいると思うので、そういう所からの意見聴取もしてはどうか。例えば、区外でも良いが、同級会の時にでも外から見てどうかと意見を聞けたら面白いのではないか。

【山岸会長】

- ・アイデアとしては素晴らしい。外から見て吉川区がどう見えているかというのは気になるところである。どういう手立てで意見を拾うか。難しいのではないか。

【田中委員】

- ・意見の拾い方だが、仰々しくアンケートとかにすると若い人たちは面倒だと言い、インターネットでもできるが、やはりアンケートは答えづらいと思うので、そういう場所があったら意見箱みたいなものを置いて、区外からの意見であればオーレンプラザの子育てセンターに置いてもらって、「吉川区をどう思いますか」みたいなものを一言書いてもらうとか、吉川にその場所を作るのはすごく良いと思う。母親同士がしゃべっていると色々意見が出る。私たちがどうですかと聞いてもなかなか答えてくれないが、母親が集まる場所に意見箱みたいなものに「吉川区ってどんなところですか」と付箋を貼ってもらう程度の集め方であれば集まる気がする。

【山岸会長】

- ・このコミュニティプラザにも集まる場所はないことはないが、気楽に話ができる場所はない。会議室はたくさんあるが。道の駅の活性化で意見を拾いたいということでアンケートを置いたことがあるが、あまり回答がなかった。

【関澤委員】

- ・先ほど薄波副会長がどこかで人口が増えていると言ったが、そういう所に視察に行ったらどうか。

【薄波副会長】

- ・そういう所は、ほとんどが遠い。

【新部委員】

- ・視察に行ったところで、解決はできない。視察に行く程度の話であればインターネットとかいろいろなところで、全国的な話はテレビでもやっている。そういうところは、無料化したり、支援したり、中古住宅を無料であげて、この間テレビでやっていたのは20年間そこに住めば家をあげるとか、そこまでやって人口を増やそうとしている。そんな真似はできないと思う。それをやれというのは協議会の意見ではない。できる範囲の提案で、意見の拾い方くらいならばできると思う。

【山岸会長】

- ・前期の委員の時に吉川区を子育て特区にできないかと持ち掛けたことがある。住居をあげるのもそうでしょうし、13区の中でも特に吉川区は急激な人口減少をしているので、市の方でも少しは考えてくれていると思う。その辺も含めて、今回は創造行政研究所の話聞いて、その次に住民へと深めて行ったらいかかがか。

【薄波副会長】

- ・創造行政研究所の件だが、安塚区の方で創造行政研究所の方が来て安塚区のことについて説明したと聞いた。その時に使った資料が上越市全体の情報が網羅されている数十ページある資料で、その中に吉川区も入っているので、その資料を取り寄せてもらえればありがたい。カラー刷りの細かいデータが載っている資料である。それを見ながら皆さんで検討したら良いと思う。

【山岸会長】

- ・それをお願いして良いか。資料を事前に配ってもらい次回に備えられるようお願いしたい。

【山本次長】

- ・話してみる。

【山岸会長】

- ・自主的審議について、今日のところはこれで良いか。自主的審議事項として、皆さんから他に何かないか。なければ私から、各町内会にある消火栓の使用について、現時点では市は危険ということで使用させないということになっている。せっかく設置して初期消火を有効にという意味合いがあったのに、生命・財産を守るのが市の務めのはずなのに、あるものを使わせないとされている。これを自主的審議事項として取り上げて、市議会でもこの件について質疑はやっているが、しっかり意見書としてそれぞれの地元から市民の声を行政に上げて行かないと動きが出ない。自主的審議事項としたいとするか皆さんにお諮りする。いかがか。

【関澤委員】

- ・いつから使えなくなったのか。

【山本次長】

- ・合併後にそうなった。

【山岸会長】

- ・13区の人口が減っている状況の中でどうしたら最小限に火災を抑圧できるかというのは、あるものは使うべきだと思う。危険なら訓練すれば良い。今はそれをさせなくなっている。合併してから使えない方に揃えてしまった。反対がなければ次回から自主的審議事項に入れて良いか。

(「はい」の声あり)

【山岸会長】

- ・では、そういうことでお願いします。

- ・次に、5 協議事項に移る。頸北地区地域協議会委員合同研修会の振り返りについて皆さんの意見を伺いたい。いかがか。

**【関澤委員】**

- ・一般の住民は、まだ協議会の認識がないという意見があった。合併して20年も経つのにまだ協議会の認識がないのだという意見もあった。また、「最近、地域協議会会長会議をやっていない。なぜなのか。」という質問があった。

**【山岸会長】**

- ・ほかにいかがか。

**【斉藤委員】**

- ・グループ討議は非常に良かった。柿崎区、大潟区、頸城区の委員との距離が縮まった。柿崎区の会長が言っていたが、案内が少し遅かった。もっと早ければもう少し出席者が増えたのではないかという話があった。

**【新部委員】**

- ・グループ討議の時間がもう少しあった方が良かった。もう少し時間がないと議論が深まらない。

**【山岸会長】**

- ・グループ討議のまとめ発表の中で言わなかったが、辞める委員が次の委員を探すべきという意見があった。なるほどと思った。

**【橋爪委員】**

- ・私は、時間的にもちょうど良いと思った。グループ討議も良いが、何期もやっている委員の意見が強くて、まとめる時もなかなか難しかった。発表そのものは、必要な部分もあるが、すべてがそれではなくてグループ討議した人たちに有意義であれば、それはそれで十分だと思う。

**【山岸会長】**

- ・事務局、研修会参加者アンケートの集計は終わったか。

**【山本次長】**

- ・アンケート結果の概要だが、概ね良かったという意見が多かった。悪かったという意見もあったが、それは時間が不足していたというものであった。まとめ次第、皆さんにお届けする。

**【山岸会長】**

- ・今までグループワークはあまりしていない。講演が多かった。今回こうやって短い

時間だったが色々な話ができ良かったと思う。

- ・他になければ、協議事項のその他に移る。何かあるか。

(声なし)

- ・なければ、6 その他に移る。委員から何かあるか。

**【薄波副会長】**

(まちづくり吉川新年を祝う会について説明)

(原之町地内の融雪道路の工事について説明)

**【山岸会長】**

(冬期除雪計画書の委員への配布について依頼)

- ・事務局、その他ないか。

**【平原班長】**

(令和7年上越市新年祝賀会について説明)

**【山本次長】**

(新潟県原子力防災訓練について説明)

**【山岸会長】**

- ・他にないか。では、次回の地域協議会の日程を諮る。12月19日午後6時30分から  
で良いか。

(異議なし)

- ・最後に閉会の挨拶を薄波副会長にお願いする。

**【薄波副会長】**

- ・以上で第6回吉川区地域協議会を閉会とする。

10 問合せ先

吉川区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 025-548-2311 (内線 213)

E-mail : [yoshikawa-ku@city.joetsu.lg.jp](mailto:yoshikawa-ku@city.joetsu.lg.jp)

11 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。